

# IV 「同窓会報の歩み」より

## 1 年表

年	同窓会長	号	「同窓会報」の内容及び紙面構成の変更点	紙面上の同窓会・教育学部の動向
29	町田義昭 (第14代) 平30年8月~	126	○「大学の発展とともに歩む同窓会」-変節と節目に向けて ・創立150周年記念の活動に向けて ・大学と同窓会が連携を密にし、会員の同意と協力を	学校教員養成課程7コースに改組(平31年) 「全学的に世界で卓越した教育研究,社会実装を推進する取組」を中核とする国立大学16校に選ばれる(平28)
30		128	○「教育学部の変遷 こぼれ話」3回連載 ○「私の趣味アラカルト」「読者の声から」10月号に定着 ○「新たな教育課題に対応した教員養成へ」 ・学校が抱える様々な課題への対応と学べる体制づくり ・全学生が特別支援教育等を学ぶ英語教育への対応 ・「ちば! 教職たまごプロジェクト」(学校現場で長期体験)	国際教養学部を設置 教育学部の募集人員減 同窓会メンバーによる就職支援 創立150周年記念の活動に向けての同窓会活動を(以上126号より)
31 令和元年		129	○同窓会組織による「進路相談事業」の詳細紹介	
		130	○創立150周年同窓会記念誌編集委員長の挨拶 ・教育学部組織の変遷紹介(昭和40年~平成30年)	
		131	○「学部卒業生の現状と課題」 ・教員就職率約50%でトップレベルを維持 ○「教育学部創立150周年記念事業会」がスタート ・シンポジウム及び式典の開催 ・記念開像の建立 ・歴史展望壁面ギャラリーの設置 ・記念誌の発行 ・教員養成支援事業	
		132	○千葉大学教育学部同窓の歴史探訪が始まる ・「旧旅館員共立学舎を訪ねて」	

## 2 紙面づくりの変遷

(1) 2012年10月15日 千葉大学教育学部同窓会報 第117号



千葉大学教育学部同窓会報 第125号 2016年10月15日 (6)

**特別寄稿**  
夢は宇宙へ  
人懐はこれまでに宇宙の真理の数%しか解明していないと言われるほど、宇宙は分らないところだらけである。たった一グラムの土に生息する生物を養った生物学者が、生息している一千万以上の微生物のうち、九十五%が名前も性質も分からないバクテリアであったと報告している。一グラムの土の中にもまだ解明されていない不思議な生物が存在する。二十一世紀を迎えた現在までに、多くの科学者の努力で宇宙は大きく進歩してきた。一般に科学者は三つの心を持っている。知りたいたいという「好奇心」、行ってみようという「冒険心」、作ってみようという「匠の心」の三つの心である。特に、不思議なものには謙虚でも好奇心を持つのは人間の本能で、好奇心は科学の出発点である。宇宙開発で我々の生活に役立つ技術や研究であり、これまでに身近な様々なものに応用されて日常生活を豊かにしてきた。次世代を担う子供たちには命の大切さと



も、何事にも好奇心を持って、これら三つの心を大きく育てて欲しいものである。宇宙に関わるようになったのは中学の頃からだった。アマチュア無線が深く影響して、三十二年程前から人工衛星を用いて交信する衛星通信に熱中し、自宅の屋上には大勢パラソルアンテナまで自作し、あらゆる衛星を自動追尾できるシステムを作り上げて現在も楽しんでいて、私の衛星通信の趣味が省庁統合府科学技術庁の耳に入ったのか、学校の先生が変わった人がいる」と、二〇一一年に宇宙開発委員会特別委員に就任された。当時の宇宙開発委員会委員は日本の宇宙開発の乾取りを担った機関であった。前宇宙の跡々たる人が委員となっていた。二〇一三年に宇宙科学研究所(ISA)S、航空宇宙技術研究所(ASA)S、宇宙開発事業団(NASDA)の三機関が統合して宇宙航空研究開発機構(JAXA)が誕生した。この三機関統合までの三年

間、日本の宇宙開発の様々な課題に挑む経験をした。この会議のおらひを一言で言えば、「宇宙開発には莫大な投資が使われるため、会議の結論は「国民への還元は子供たちの教育」であった。諸島太郎とお馴染みの物語からの子供たちにお馴染みの物語から「空高く一時空を越えよ」未知なるそれらは全て宇宙に通じており、子供たちは知らず知らず宇宙に魅かれていたといえる。好奇心が宇宙を育てる。宇宙を育てる。宇宙開発の目的を定める目的の目としてJAXA宇宙教育センターが神奈川県相模原市に設立された。私は三十八年間勤めた中学校教員を退職してJAXAに勤めることとし、二〇〇九年からは宇宙教育センター長として学校教育支援、社会教育支援、国際連携など様々な経歴を辿ってきた。その中でも、アポロ十七号で月面に着陸して百十キロメートルの岩石を地球に持ち帰った宇宙飛行士ハリソン・シュミットに講演してもらったことは貴重な経験であった。



空気や重力がある我が住む地球は全宇宙から考えると特殊な宇宙である。身近な自然の事象も宇宙の視点・視点で見ると見えてくる。当分前まで思っていたことと、不思議な現象に見えて、新しい発想が生まれてくる。この宇宙の視座で物事を考える教育を我々は宇宙教育と呼んでいる。宇宙教育は宇宙そのものを教えるのが目的ではなく、宇宙の自然現象を教えるは理科だけでなくすべての教科、領域に関わり、子供たちへの教育に大いに活用できる習業を極めていく。私は宇宙が子供たちの心を大きく育ててくれようことを常に願うものである。

**紙面作りの変遷 4**  
全面カラー化と魅力ある紙面づくり  
紙面のカラー化については、編集委員会の中では以前から話に上がっていた。経費のこともあり、なかなか実現できなかった。最初のカラー化は百四十周年記念の特別号の第一七号で実現した。  
これは、あくまで記念号として発刊したものである。  
その後も、全面カラー化は懸案事項として残った。町田編集委員長と古山編集長はじめ、編集委員の強い要望として、常任理事会で検討され、平成二十八年・・・

**我が学舎の今昔(二)**  
学生食堂  
宮業 清子  
(昭和38年卒業)

「学食」というと、必ず話題になるのが、四十円のカレー。昭和四十年代  
その学食は、現在、総合学生支援センターとなっている所があった。  
現在は、学食などとは言わず、フードコートといい、右記センターの右隣(教育学部寄り)にある。

昭和40年代

現在のフードコート1

やがて、カレーは二百五十九円である。